



英語教授知識認定テスト(TKT:Teaching Knowledge Test)

～英語教授法の知識を測る国際基準の認定テスト～

TKTとは？

英語教師に求められる言語・教授法の基礎知識を網羅した、ケンブリッジ大学英語検定機構が開発したテストです。TESOL（英語を母国語としない人に対する英語教授法を専門的に学ぶ学問分野）の基礎を学びます。受験準備を通じて、英語教師としての自信とスキルが身に付きます。

なぜ、いま TKT が必要なのか？

生徒の英語力向上のカギとなる**教員の指導力の向上**に注目が集まっています。日本でも **CEFR¹（ヨーロッパ言語共通参照枠）** や **Can-Do リスト** などが英語教育現場に紹介され、**国際的な尺度や指標**を身近に感じるようになってきました。TKT は、自分の経験に対する**公式な評価**を得るため、**国際的に認知された資格取得**を希望する世界中の先生方の要望に応じて開発された**世界基準の認定テスト**です。

TKT（モジュール1,2,3）の対象は？

- 小、中、高、大、成人学習者など、あらゆる教育レベルで指導されている英語の教員の方
- 経験はあるが、正式なトレーニングを受けたことがない教員の方
- 英語教育に関する知識を復習したい教員の方
- 経験が少ない教員の方、または全くないが将来教員を目指したい方

受験者にとってTKTのメリットは？

- 持っている知識を確認、更新、深めることができる
- **自信とモチベーションを高める**ことができる
- **世界基準の資格**を通じて、英語教師としてファースト・クラスのキャリア・パスを築く**基礎**ができる
- 授業の助けとなる、授業の幅が広がる
- **英語で英語教授知識を学習するため、英語で授業を行う準備、練習**ができる
- 英語で英語教授知識を学習するため、**ALTと知識共有**が容易となり、授業の準備・実施がより効果的に行える

TKTの特徴

歴史	世界的なニーズにより開発され、世界の 1,500 名以上の英語教師の方によるトライアルを経て 2005 年スタート
取得メリット	英語教員採用や研修対象者選定時のベンチマークとして海外で活用。国際的に認知された資格。より専門性の高い CELTA や Delta 等の TESOL 資格への導入として最適
作成意図	すべての英語教師に求められる基礎的な知識に焦点を当てた世界標準の認定テスト。国際的に通用する教師としての自信と知識の醸成を狙いとするテスト
テスト結果 (評価)	合格・不合格の判定ではなく、各モジュールの成績が 4 段階評価のバンド・スコアで報告される。 バンド 1 (limited : 限られた知識) から Band 4 (extensive : 広範な知識) で評価されるテスト
受験対象者	英語が母語でない人および英語ネイティブ・スピーカー
英語能力	CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) の B1 レベル相当以上 (TKT:KAL は B2 レベル以上必要)

¹Common European Framework of Reference for Languages のこと。言語運用レベルの基準として 2001 年に欧州評議会により開発され、その際ケンブリッジ大学英語検定機構はさまざまな支援を行った。機構が創設メンバーである ALTE (Association of Language Testers of Europe : ヨーロッパ言語テスト協会) の「Can Do ステートメント」と共に、現在は欧州のみならず世界各国で利用されている。



テストの概要：TKT は自分のペースで受験準備できるモジュール制

*団体受験の場合、試験日はTKT センターと予め調整して設定することが可能です

基本 モジュール	モジュール 1	英語の学習と指導に関する言語知識・背景 優れた指導テクニックに必要な知識、学習者の習得過程、言語理解など	80分 80問	マーク式
	モジュール 2	指導案作成と英語教授のための教材活用法 指導案作成に必要な教員の知識やスキル、その指針となる評価や教材等	80分 80問	マーク式
	モジュール 3	授業マネジメント 英語授業をする際に教師として留意すべき授業マネジメントの知識	80分 80問	マーク式
専門 モジュール	TKT: CLIL	学習者の母語ではない言語を介して教科を教える「CLIL: Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習)」用テスト	80分 80問	マーク式
	TKT: YL	幼児～小学生(Young Learners)に英語を教えるのに必要な方法やスキルに関する知識を測るテスト。小学校英語の指導者に最適。	80分 80問	マーク式

TKT 活用例 タイ、ベトナム、ポルトガル、チリ、メキシコ、コロンビア等、多くの教育省が**教員採用や研修のベンチマーキング**に導入。その他、英語教授法の学位コースに TKT を活用する事例もある。(アルゼンチン、ブラジル、台湾など)

【ご参考】TKT モジュール 1,2,3 公式ハンドブック*にある出題例

モジュール 1：言語知識と背景		モジュール 2：指導案作成と教材活用法		モジュール 3：授業マネジメント	
問	内容	問	内容	問	内容
1～5	文法用語の知識①	1～7	アクティビティと指導上の狙い	1～7	授業で用いる教師言語とその機能
6～10	文法用語の知識②	8～14	指示文とアクティビティの狙い	8～16	授業で用いる頻出表現
11～16	文法用語の知識③	15～20	苦情を扱うアクティビティの狙い	17～21	初級成人学習者に用いる教師言語
17～21	発話機能の分類	21～29	授業計画に関する用語	22～27	指導に生徒の母語を使う目的
22～29	発音	30～36	授業計画（読解スキル）	28～32	上級学習者の発言意図、理解
30～35	ライティングの種類	37～41	状況に応じた評価理由	33～40	文法上の誤りに関する分類
36～40	言語スキルに関する知識	42～49	語彙に関する本の構成	41～49	教師の役割と教師アクティビティ
41～46	学習意欲を高めるテクニック	50～56	辞書にある情報の活用	50～55	生徒のグループ分けのコツ
47～53	学習者の選好の類型化	57～64	トピック別書籍の活用	56～63	グループ及びペアワークの問題点解決
54～59	学習者の学習戦略	65～72	教科書演習と教材	64～70	クラス状況に応じた教師対応のコツ
60～66	教授法の理解	73～80	教材の種類と特徴	71～75	生徒の誤りを訂正する方法
67～73	発話練習のタイプ			76～80	フィードバックと狙い（書くスキル）
74～80	アクティビティをタスク別に分類				

*公式ハンドブックは www.cambridgeenglish.org/Images/22167-tkt-sample-papers.zip からダウンロードできます

受験準備に 役立つ情報 (無料)	① TKT 情報（日本語）は www.cambridgeenglish.org/jp/teaching-english/teaching-qualifications/ をご覧ください。
	② TKT ハンドブックや練習問題、TKT Glossary（用語集）など、受験準備に役立つ情報（すべて英語）は、 www.cambridgeenglish.org/teaching-english/teaching-qualifications/tkt/prepare-for-tkt/ からダウンロード可能。
(有料)	③コースブック：“The TKT Course Modules 1, 2 and 3 Second edition”（ケンブリッジ大学出版局）¥2,800 税別 ④TKT オンライン：モジュール 1,2,3 を学ぶオンライン・コース。進度をモニターし達成ゴールを可視化するツールがあり、豊富な動画へのアクセスが可能。80～110 時間の学習時間が目安。ケンブリッジ大学出版局が販売。¥3,000 税別

【お問い合わせ】TKT 試験センター、もしくはケンブリッジ大学英語検定機構日本支部 TKTJapan@cambridgeenglishreps.org まで

ケンブリッジ大学英語検定機構 (Cambridge English Language Assessment) は、ケンブリッジ大学の一部門であり、欧州最大規模を誇る教育評価機関であるケンブリッジ・アセスメントグループの一員です。英語の学習や指導に関して、世界をリードするさまざまな資格認定サービスを提供しています。受験者数は、世界 130 カ国でおよそ年間 500 万人に上り、大学・企業・省庁など 20,000 を超える世界中の機関が、英語力の証明に弊機関の資格テストを活用しています。